

令和4年度第二回愛媛県循環器病対策推進協議会の開催結果

1 開催日時 令和5年2月7日(火)18:00~19:30

2 開催場所 (web開催)

3 出席者

【委員】泉谷委員、國枝委員、児島委員、檜垣委員、村上委員、山口委員、河野委員、山本委員、矢川委員、斉藤委員、馬越委員、二宮委員、橋本委員(13名)
(池添委員、渡辺委員欠席)

【事務局】丹課長、青陰技幹、三宅係長、和田専門員、大澤専門員、今村主任(6名)

4 協議会の内容

(1) 山口会長挨拶

- ・愛媛県循環器病対策推進計画が発表されて、丸1年となる。様々な取り組みが進められてきた中で、「高血圧重症化予防プログラム」の策定もその一端である。
- ・健康寿命を20年後に約3歳伸ばすということを目指している計画であるが、結果が出るのは先であるため、目の前の問題に一つずつ取り組んでいくことを皆様のお力添えにより進めていきたいと考えている。

(2) 議事

I 県循環器病対策推進計画に基づく取り組みについて

○事務局説明①

【資料1】

<愛媛県(健康増進課)における取り組みについて(R4年度)>

- ・循環器病特別対策事業として県で今年度より予算化し国の2分の1の補助金を受けて実施。
 - ①愛媛県循環器病対策推進協議会の開催(年2回)
 - ・計画に基づく取り組みの進捗管理等を実施。
 - ・計画を広くPRするために県民向けの「計画概要版チラシ」を作成し、配布。各市町や関係団体を通じて6,000枚以上配布。
 - ②人材資質向上支援事業
 - ・今年度は歯科衛生士会に委託し、専門職向けの疾患啓発研修会を12月に実施。
 - ③循環器病に関する調査事業
 - ・移行期医療整備のための医療機関調査を実施。(報告1)
- ・既存事業や産官学連携協定を利用して、専門職への研修会や普及啓発を実施。
- ・AED設置にかかる調査を実施(報告2)、心不全死亡の分析のため死亡個票分析を実施中。
- ・子どもの時期からの生活習慣病予防・意識啓発のため、小学生を対象に「学校教育プロジェクト」を開催(報告3)、大変好評であった。

○委員からの意見等

[計画概要版チラシについて]

- ・所属団体や病院・役所で活用し、配布・設置・掲示をした。
- ・意識の高い人は医療にもかかり、健診にも来る。意識の低い人との二極化が問題。
- ・意識の低い人にどうメッセージを届けるか、課題。
- ・全県下で6,000枚は少ないので、増刷希望。

[高血圧重症化予防プログラムについて]

- ・令和5年度からどの市町がプログラムを実施するかは今後調査予定。(事務局)
- ・医療機関からの意見はまだ特には出ていないようだ。

[死亡個票分析について]

- ・1995年からICD10になってからの死亡票と直近3年の死亡個票を取り寄せ、集計中。人口動態統計の特徴から結果をお知らせしたい。
- ・死亡診断書で明らかに心不全でないものもあるようだが、他県と比べてどうかは不明。

[循環器病に関する調査事業：移行期医療]

- ・調査協力いただいた方に感謝。先天性心疾患について60%の方が知っていると捉えて、

センターの周知と連携を進めていきたい。学会の調査とも連携し、更に分析を進めていきたい。
[AED 設置にかかる調査]

- ・回収率が高く、貴重な結果。施設種別ごとの分析を進めていきたい。小中学校については、1 台も設置していないところはなくなっている。
- ・若年での死亡（突然死）については、救命のために AED をうまく設置し活用する必要がある。複数台設置と屋外設置が重要。
- ・近隣住民への貸し出しが 24 時間 365 日可能なところは 1/4。施設のセキュリティとの兼ね合いもあるが、学校へ行けば入口に AED が設置されているということであれば住民の救命も可能。
- ・小中学校の AED の屋外設置が進んでいるところもあり、実際に体育館の外壁の AED を住民が使った事例がある。学校が一番安全な場所になりえる可能性あり。

[学校教育プロジェクト]

- ・大変好評であった取組みであるので、是非継続と県下への展開をお願いしたい。
- ・当初より子どもの時からの教育の重要性について意見を出していたが、今回形になったことが嬉しく思う。年齢層も是非広げていってもらいたい。

⇒今回のコンテンツを使用する取組みを県下に広げていけるよう各保健所と協議中。(事務局)

○事務局説明②

〔資料 2〕

<各委員からの取組み報告について（R 4 年度）>

○委員からの意見・現状報告等

- ・減塩弁当は身近でよい。減塩料理を家で再現できるような取組みであれば長続きするのではないか。スーパーなどとタイアップしてはどうか。
- ・愛媛大学でも栄養士監修で減塩レシピをまとめたことがあった。スーパーにレシピ配布に協力してもらってはどうか。メッセージが届きにくい人も、スーパーなどには来るのでは。
- ・高血圧の課題について保健師だけの PR ではなく、地域の医師の協力も得られ、全体で雰囲気作りをしている。地域では災害を通じて顔の見える関係性ができてきた。
- ・大動脈緊急症の受け入れについて、LINE を使って病院同士の連携を開始した。
- ・他県では救急受入れのための画像転送システム活用・体制ができているところもある。
- ・画像転送システムについては、県としても順次充実させていく方向性。
- ・公民館活動との連携で、地域を巻き込んで減塩を勧めてはどうか。社協とも連携もよい。
- ・必ずしも医療従事者が直接啓発しなくても、様々な人を巻き込んでいくこともよい。
- ・啓発だけではなく、治療やリハビリについても幅広く取組みを進んでいることを実感。
- ・企業や産業医とも連携した取組みが進めばよい。

○事務局説明③

〔資料 3〕

<現計画の評価等について>

- ・中間評価として、県計画の指標について、最新の値が出ているものについて記載。よくなっているものを黄色、悪くなっているものを灰色で着色。一概に評価は難しいが参考として提示。
- ・再入院率について今回参考値として算出。

○委員からの意見等

- ・心不全の 6 か月後の再入院率を出してもらえたことはありがたい。過去の日本の調査の 1 年後の再入院率と比較して同じくらいなので、高い印象。
- ・脳卒中の再入院については、怠薬・減薬・薬の変更が原因であるケースもある印象。
- ・今後も継続して算出できるよう検討してもらいたい。

○事務局説明④

〔資料 4〕

<次期計画の策定及び R 5 年度のスケジュールについて>

- ・国の方針を踏まえて今後検討するが、県計画についても大幅な修正はない見込み。
- ・国が示した指標案について、県計画に未採用のものについては、今後検討。
- ・来年度の次期計画策定についても、御協力をお願いしたい。